

令和6年第4回定例会において、今後の市政運営に臨む所信及び市政運営方針を申し上げる機会をいただき、深く感謝申し上げます。

先の市長選挙において、「チェンジ！さらに、前へ。」と訴え、無投票という結果ではありましたが、再び市政運営を担わせていただくこととなりました。

4年前の所信表明においてお誓い申し上げました、子や孫の世代へ「自慢のまち」という贈り物ができるように、という決意は、この間いささかも揺らいでおりません。

この度の再任により、この決意をさらに強固なものとし、子や孫の世代へ「自慢できる新しい志摩市」の実現に向けて、私自身が先頭に立って、市民の皆さま並びに議員各位とともに歩みを進めてまいります。

1期目の根幹に据えた理念は、市民の皆さまとの対話を通じた市民主役のまちづくりと、次世代に負担を残さない財政運営です。そのうえで、変えるべきものは変え、守るべきものは守るとともに、新たな魅力を創造していく「チェンジ」の方針のもと、市政運営を行ってまいりました。

次の4年間も、これらの理念と方針を変えることなく貫いてまいります。

さて、わが国は世界に先駆けて人口減少や超高齢社会を迎えています。2050年には、わが国の人口は1億人を割り込むとされており、今後ますます人口減少、少子高齢化が進むものと見込まれています。

志摩市におきましても、平成17年に5万8千人であった人口が、現在は5万人を下回る4万5千人、65歳以上の高齢化率についても40%を超える水準となっています。

しかし、志摩市の人口動態では、人口減少が進んでいるものの、令和5年においては、前年と比較し20代、30代の転出超過が減少するとともに、40代で

は、わずかながらも転入超過となりました。

このような明るい兆しが見え始めている今、志摩市はターニングポイントを迎えており、まさにこれからの取り組みが、志摩市の将来を左右すると言っても過言ではない状況にあり、新たな一步を踏み出し、確かな道を切り拓いていく必要があります。

こうした状況をふまえながら、これから述べます所信では、最重点施策の「価値観」「安心」「教育」「産業」「行政」の5つのチェンジの内容と、あらゆる世代や市域全体を捉えたさまざまな課題の解決に向けた取り組みの方向性についてお示しします。

まず1点目に「**価値観のチェンジ**」です。

「経済的豊かさ」から「心の豊かさ」へ、「豊かさ」を求めた20世紀から、21世紀に入り「よりよく生きる」ことへ価値観がシフトしたと言われています。人間が人間らしく生きるために必要な「心の豊かさ」を、ここ志摩市から国内外へ発信します。

令和7年11月9日に開催が決定しました「第44回全国豊かな海づくり大会」の成功に向け、三重県や南伊勢町と連携を図りながら、市内の環境整備と気運醸成に取り組みます。

企業誘致を促進し、仕事と住まいの環境をより充実させるため、引き続き、ビジネス拠点の誘致と若者世代の移住促進に注力します。

心豊かさと幸せを実感できる人口減少対策に取り組み、避けられない人口減少に適した新しい志摩市の姿をつくります。

2点目は「**安心のチェンジ**」です。

令和6年 能登半島地震の被災地における支援活動で得られたさまざまな気づきを生かし、浮き彫りとなった課題への対応に、スピード感をもって取り組む必要があります。特に、災害時の人的被害ゼロの実現に向け、一時避難場所である津波避難タワーの整備などをより一層促進し、市民の生命と財産を守ります。

安心できる子育て環境の充実を図るため、出産祝い金の継続と切れ目のない子育て支援に取り組みます。

安全・安心な交通利便性の向上に向けて、伊勢志摩連絡道路・五知から白木間の整備促進や、浜島塩屋バイパスの早期完成に向け、三重県や近隣市町と連携し、国への要望を加速させます。

3点目は、「**教育のチェンジ**」です。

若い世代が未来に明るい希望が持てるまちづくりを進めていくためには、未来を担う子どもたちの学びを充実させ、心豊かに育つ環境を整えていくことが大変重要であると考えています。引き続き、学校給食費無償の継続や、子どもたちと志摩市産食材の出会いを応援し、その魅力を伝えます。

学びの充実に向けて、市内全小・中学校体育館の空調を整備するとともに、新たに小・中学校の修学旅行費用の一部を補助し、家計の負担軽減を図ります。

4点目は「**産業のチェンジ**」です。

志摩市における「観光」は、コロナ禍を経ても成長戦略の柱であり、地域活性化の切り札として、国際的な相互理解にもつながる重要な役割を担っています。

「持続可能な観光」「消費額の拡大」「誘客促進」をキーワードに、志摩市の津々浦々のあらゆる産業へ観光の恩恵を行きわたらせていく必要があります。

このため、私たちがターゲット国を絞った海外トップセールス等を行い、インバウンドを含む観光誘客の拡大と観光消費額の増大をめざします。

地球温暖化等の影響を大きく受けている第一次産業を守るため、漁業者の新たな収入確保に向けた「海業」の推進を図り、「漁業×観光」「漁業×海外」等により、市内水産物の消費拡大を目指します。また、耕作放棄地の解消に向け、三重県と協働したスマート農業の促進や新たなコメ品種の栽培実証を進めます。

サーフィンという志摩市の特長である地域資源を最大限に活用し、交流人口の拡大による地域活性化を図り、定住・移住促進につなげるため、志摩市サーフシティ構想（仮）を策定します。

5点目は、「**行政のチェンジ**」です。

行政ニーズの多様化・高度化、情報通信革命の進展による行政と民間の情報格差の縮小などを背景に、行政と市場の関係は市場優先の方向にシフトし、また、行政運営にも市場原理の導入が求められています。さらに、民間にその提供を委ねることや、民間と競合する分野が増加するとともに、行政運営についても、民間企業と比較した効率性、機動性、透明性、さらにはサービスの質といった要素が常に意識されるようになっていきます。

こうした中、志摩市においても、デジタル化を図りながら、民間の経営経験を生かした未来型市役所づくりや、引き続き市政運営の要となるあらゆる財源確保に努めてまいります。

令和2年10月に市長へ就任させていただき、1期目の4年間では、コロナ禍の中でもさまざまな施策を講じてきましたが、市民の皆さまにとって、「本当に安心して楽しく暮らせるようになったのか」「生活が豊かになったのか」また、

「どれほどの人が幸せを実感できたのか」など、どこまで到達できているかを考えると、まだ成すべきことが数多くあります。

市民お一人おひとりが自分らしく暮らし、自分の進みたい人生を歩むことができるよう、多様性を認め合える社会の構築等を進め、誰もが幸せになれる機会や居場所をつくっていきたいと考えています。

そのためにも、組織一丸となり、新たな取り組みに挑戦し、若い世代、子育て世代からさらに選ばれるまちへと進化させていく必要があります。

そして、あらゆる世代に笑顔があふれる志摩市の輝かしい未来を、市民の皆さまと一緒に創っていきたい。こうした強い想いを、市長2期目のスタートにあたり、私の新たな決意として申し上げます。

ただ今、述べました所信をもとに、志摩市の確かな進化を市民の皆さまに実感していただけるよう、全ての分野を対象に必要な施策を講じ、その具体的な取り組みは、毎年度の施政方針や予算においてお示しさせていただきます。

今後とも、市民の皆さまの、市政に対するさまざまなお声にしっかりと耳を傾け、それぞれのお立場に寄り添いながら行動していく姿勢を常に大切にするとともに、市議会からのご意見をお聴きし、私をはじめ職員一人ひとりがあらゆる挑戦をいとわず、市政運営に邁進してまいりますので、市民の皆さま、事業者の皆さま、市議会議員各位のご理解とご協力をいただきますよう心からお願いを申し上げます、私の所信とさせていただきます。

令和6年11月29日

志摩市長 橋爪政吉